



TITLE:

腹部交感神経交通枝ニ於ケル副神  
経節ニ就テ

AUTHOR(S):

岩間, 義夫

---

CITATION:

岩間, 義夫. 腹部交感神経交通枝ニ於ケル副神経節ニ就テ. 日本外科宝函  
1926, 3(6): 1159-1169

ISSUE DATE:

1926-11-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/200003>

RIGHT:

# 腹部交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ニ就テ

## Ueber das Ganglion accessorium an dem Ramus communicans des Bauchs ympathicus.

Von Dr. Yoshio Iwama.

Aus dem anatomischen Institut der Kaiserlichen Universität zu Kyoto.

(Leiter: Professor Dr. S. Funaoka)

京都帝國大學解剖學教室(舟岡教授指導)

大學院學生 醫學士 岩 間 義 夫

顯微鏡検査ニヨリ交感神經交通枝中甚ダ屢々神經細胞ノ存在ヲ證明シ得ルハ、既ニ諸學者ノ等シク之ヲ確認シテ疑ハザル所ナリ。然レドモ、其ノ數常ニ僅少ニシテ、神經纖維間ニ散在セルニ過ギズ。多數ノ神經細胞ノ群在シテ、肉眼的ニ神經ヲ形成スルガ如キコトハ、ソノ例人類ニ於テハ極メテ稀有ナルカ、兎ニ角從來多ク注意サレザリシ所ニシテ、文献ヲ涉獵スルニ、僅ニ Dr. Andrew Minum ノ頸部交感神經交通枝ニ於ケル一例ト、松井ガ胎兒ノ頸部及ビ胸部交通枝ニ於ケル微細ナル神經節樣結構ノ存在ノ各一例ヲ記載シタルノ數例ニ過ギザルモノ、如ク、腹部交感枝ニ於テノ之ガ存在ニ就テハ、未ダ其ノ報告ニ遭遇セズ。

翻ツテ交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ノ存在ガ交感及ビ脊髓兩神經ノ發生史上ニ、又之ガ近時將ニ開拓サレントシツ、アル末梢神經纖維ノ解剖學的研究ニ、延イテハ更ニ之ガ生理學的研究ニ對シテ有スル所ノ意義ノ極メテ大ナルハ余ノ言ヲ俟タザル所ナリ。

余ハ曩ニ腹部交感神經ノ形態學的研究ニ際シ、偶々一初生兒ノ腹部交感神經交通枝ニ於テ著大ナル神經節ノ存在ヲ確

證セルヲ以テ、更ニ之ガ系統的解剖學的研究ヲ行ヒタリ。

研究材料。材料トシテ余ハ京都帝國大學解剖學教室ニ於テ七〇%「アルコール」液中ニ數年來貯藏サレタル所ノ初生兒及ビ妊娠末期ニ近キ胎兒ノ二十三屍四十六側ヲ選擇セリ。成人ニ於テハ余ノ既ニ檢査セル所ノモノ約十例ニ就テノ範圍ニ於テハ未ダソノ腹部交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ノ存在ヲ確證セズ。ソノ存在從ツテ極メテ稀有ナルカ、或ハ其ノ形狀過小ニシテ觀過セラル、ニヨルナラン。加之ソノ良好ナル材料モ亦極メテソノ數乏シクシテ之ヲ得ルコト容易ナラズ。コレ即チ余ガ本問題ノ研究ニ際シテ上述ノ如ク材料ヲ取捨セル所以ナリ。年齡及ビ妊娠月數ノ不明ナルモノハ代ツテ之ガ身長ヲ附記シタリ。

研究方法。擴大鏡(四倍大)使用、「ピンセット」運用ノモトニ可及的ニ銳器ノ使用ヲ禁忌シ、以テ神經ヲ其ノ原位置ニ於テ解剖スルニ勉メタリ。

## 一、副神經節ノ存在部位ト狀態ニ就テ

研究材料二十三例四十六側ニ於テ、余ハソノ九例(六〇・九%)、十一側(二三・九%)ニ於テ總數十五個ノ大小形狀不同ノ副神經節ヲ發見セリ。

第一例(第一號胎兒、十箇月、♂、身長四三・三釐)

第三第四腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ左側大腰脇筋内ニ、交通枝全長ノ内約三分ノ一部ニ偏在シ、内方ハ左側第三腰椎部ニ存在スル腹部交感神經節ニ一條ノ交通枝ニヨリ、外方ハ二條ノ交通枝ニヨリテ左側第三腰部脊髓神經ニ連ル所ノ形類橢圓ニシテ長徑約四・〇耗横徑約二・〇耗ヲ算スル一個ノ副神經節アリ。(第一圖參照)

第二例(第五號胎兒、♀、身長三五・一釐)

第一第二腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ之ガ直上ニ、左側交感神經幹ノ直外側ニ、内方ハ極メテ短キ二條ノ交通枝ニヨリ第一、第二腰椎椎骨間部ニ存在スル交感神經節及ビソノ直下部交感神經幹ニ連リ、外方ハ一條ノ交通枝ニ

ヨリテ第一腰部脊髓神經ニ連ル所ノ一個ノ副神經節アリ、其ノ形正三角ニ近ク、ソノ最長一邊ノ長サ約一・〇耗、頂點ヨリソノ一邊ニ下セル垂線ノ長サ約、一・一耗ヲ算ス。(第二圖參照)

第三例(第七號胎兒、♂、身長四七・三釐)

左記三個ノ副神經節(第一、二、三)ノ存在ヲ確證ス。

一、第一副神經節。第二腰椎椎體上半部ノ高サニ於テ之ガ直上ニ、交通枝ノ約中央部ニ位シ、形類橢圓、長徑約四・〇耗横徑約一・五耗ヲ算シ、内方ハ一條ノ交通枝ニヨリ第二腰椎椎體部ニ存在スル所ノ左側腹部交感神經節ニ外方ハ二條ノ交通枝ニヨリテ左側腰部第一脊髓神經ニ連ル。

二、第二副神經節。第三、第四腰椎椎骨間軟骨ノ高サニ於テ左側大腰脇筋

内ニ介在シ交通枝全長ノ著シク外方ニ偏在シ、内方ハ二條ノ交通枝ニヨリ第二第三腰椎椎骨間軟骨部ニ位スル左側腹部交感神經節ニ、尙ホ一條ノ交通枝ニヨリテ第三第四腰椎椎骨間部ニ位スル同側交感神經節ニ連リ、外方ニハ二條ノ短キ交通枝ニヨリテ左側第三腰部脊髓神經ニ連リ形不正四邊長徑約三・二耗短徑約一・八耗ヲ算ス。

三、第三副神經節。第二、第三腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ之ガ直上ニ、交通枝全長ノ外側部ニ偏在シ、内方ニハ二條ノ交通枝ニヨリ第二腰椎部ニ位スル所ノ右側交感神經節ニ連リ、外方ハ一條ノ交通枝ニヨリ右側腰部第二脊髓神經ニ連リ、ソノ形橢圓ニシテ長徑約三・二耗短徑約一・三耗ヲ算スルヲ見ル。(第三圖参照)

#### 第四例(第八號胎兒、♀、身長四七・三釐)

第三第四腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ左側大腰脇筋内ニ、交通枝全長ノ約中央ニ位シ、内方ニハ二條ノ交通枝ニヨリテ夫々第三及第四腰椎椎骨體部ニ位スル二個ノ左側腹部交感神經節ニ連リ、外側ハ又二條ノ交通枝ニヨリテ左側第三腰部脊髓神經ニ連ル所ノ一個ノ副神經節アリ、ソノ形ハ不正四邊形ヲ呈シソノ長徑約三・〇耗短徑ハ約一・二耗ヲ計ル。(第四圖参照)

#### 第五例(第十二號胎兒、七箇月、♀、身長四六・三釐)

第三第四腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ右側大腰脇筋内ニ、交通枝ノ約中央ニ位シ内方ハ二條ノ交通枝ニヨリテ第三腰椎部ニ位スル右側交感神經節ニ更ニ一條ノソレニヨリテ第五腰椎部ニ存スル右側腹部交感神經節ニ連リ、外方ハ三條ノ交通枝ニヨリテ右側腰部脊髓神經ニ連ル、但シ上位ノ一條ハ第二腰部脊髓神經ニ、下位ノ二條ハ第三腰部脊髓神經ニ連ル所ノ形不正五角、長徑約三・〇耗短徑約一・五耗ヲ有スル一個ノ副神經節アリ。(第五圖参照)

#### 第六例(第十七號胎兒、十箇月、♀、身長四三・三釐)

左記四個第一、二、三、四副神經節ノ存在ヲ認ム。

一、第一副神經節。第一第二腰椎椎骨間軟骨部ニ於テソノ直上ニ、左側交

通枝全長ノ外側部ニ近ク偏在シ、内方ハ一條ノ交通枝ニヨリテ第二腰椎部ニ存在スル所ノ左側交感神經節ニ連リ、外方ハ一條ノ極メテ短小ノ交通枝ニヨリテ左側第一腰部脊髓神經ニ、上方ハ長キ一條ノソレニヨリテ左側胸部第十二脊髓神經ニ連リ、ソノ形ハ不正三角ヲ呈シ、ソノ最長邊ハ長サ一・五耗ニシテ頂點ヨリ該底邊ニ下セル所ノ垂線ノ長サハ約一・〇耗ナリ。

二、第二及第三副神經節。第二第三腰椎椎骨間軟骨部ニ於テ左側交通枝全長ノ中央部ヨリ稍内側ニ偏シ、第二神經節ハ第三神經節ノ直上部ニ位シ、兩者互ニ極メテ短キ交通枝ニヨリ連結シ共ニ共通ノ一交通枝ニヨリ左側腰部第二脊髓神經ニ連リ、第二神經節ハ又内方ハ二條ノ交通枝ニヨリテ第二腰椎部ニ位スル左側交感神經節及ビソノ直下部交感神經幹ニ連リ、ソノ形類橢圓ニシテ長徑約二・七耗短徑約一・一耗ヲ算ス、第三神經節ハ又一條ノ交通枝ニヨリ同上記交感神經幹部ニ連ル、但シソノ直前ニ於テ第二神經節ノ上記交通枝ト合シテ一條トナル、第三神經節ハ又形等シク類橢圓ニシテ長徑約一・五耗、短徑約一・〇耗ナリ。

三、第四副神經節。形不正三角ニシテ最長邊ノ長サ約一・一耗、頂點ヨリ該邊ニ下セル垂線ノ長サ約一・〇耗ヲ算シ、第一腰椎椎體部ノ外右側部ニ於テソノ直上ニ、交通枝全長ノ中央ヨリ稍外側方ニ於テ存在シ、内方ハ一條ノ交通枝ニヨリテ第一腰椎部ニ存スル右側交感神經節ニ連リ、外方ハ二條ノ交通枝ニヨリ右側胸部第十二脊髓神經及ビ同側腰部第一脊髓神經ニ連ル、但シ後者ハソノ脊髓神經ニ連ルニ先立チ分レテ二條トナル。(第六圖参照)

#### 第七例(第十九號胎兒、九箇月、♀、身長四一・〇釐)

第一第二腰椎椎骨間軟骨部ニ於テソノ直上ニ、交通枝ノ約中央部ニ位シ、内方ハ一條ノ交通枝ニヨリテ第二腰椎部ニ位スル左側交感神經節ニ連リ、一方ハ夫々一條ノ極メテ細キ交通枝ニヨリテ左側胸部第十二及ビ同側腰部第外脊髓神經ニ連ル所ノ一副神經節アリ、其ノ形ハ略々正三角ヲナシソノ一邊ノ長サ約一・五耗、頂點ヨリ該邊ニ下セル垂線ノ長サ約一・〇耗ナリ。(第七圖

參照)

第八例(第二十二號胎兒、八箇月、♂、身長四三・五種)

第三第四腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ左側大腰脇筋内ニ位シ、内方ハ二條ノ交通枝ニヨリテ第三腰椎部ニ位スル左側腹部交感神經節ニ連リ、外側ハ一條ノ交通枝ニヨリテ左側第三腰椎部脊髓神經ニ連リ交通枝全長ノ殆んど中央部ニ位スル形略々正三角形ニシテ一邊ノ長サ約一・二耗、頂點ヨリ該一邊ニ下セル垂線ノ長サ約一・一耗ヲ有スル所ノ一副神經節アリ。(第八圖參照)

第九例第二十三號初生兒、生後四日、♂、身長四八・八種)

左記二個第一、二副神經節アリ、  
一、第一副神經節。右側第三腰椎椎體ノ略々中央部ノ高サニ於テ交通枝ノ約中央部ニ、右側大腰脇筋内ニ介在シ、内方ハ夫々一條ノ交通枝ニヨリ夫々

上述所見ヲ總括シ、併セテ之ヲ表示セバ次ノ如シ。

副神經節ノ存在部位ト脊椎トノ關係(第一、二表)。副神經節ノ左右兩側總數十五個(九例)三三・八%ニ對シテ右側ニ於テハソノ存在總數五個(三例)一〇・九%ノ中第三第四腰椎椎骨間軟骨部ニ存スルモノ二個(二例)四・二%ニシテ、第一腰椎部、第二第三腰椎椎骨間軟骨部及ビ第三腰椎部ニ存在スルモノソノ數各々一個(三例)二・一%ニシテ、其他ノ腰椎部ニ存スルモノナシ。左側ニ於テハ副神經節ノ存在總數十個(七例)二一・七%ニシテ、ソノ第三第四腰椎椎骨間軟骨部ニ存スルモノ總數四個(四例)八・七%ニシテ最モ多ク、第一第二腰椎椎骨間軟骨部ニ存スル場合コレニ次キ總數三個(三例)六・五%、第二腰椎部ニ存スルモノ總數二個(二例)四・二%、第二第三腰椎椎骨間軟骨部ニ存スルモノ一個(一例)二・一%ニシテ、ソノ他ノ腰椎部ニ存在スルモノナシ。即チ交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ノ存在ハソノ數及ビ例ニ於テ共ニ右側ニ比シテ左側ニ多ク、而モ兩側何レモ第三第四腰椎椎骨間軟骨部ニ於テ最モ多シ。但シ該部位ニ於テモ亦左側ニ於テヨリ多數ナリ。

第三及ビ第四腰椎部ニ位スル右側腹部交感神經節ニ連リ、外側ハ又夫々一條ノ交通枝ニヨリテ右側腰部第一及ビ第二脊髓神經ト、下方ハ極メテ短小ナル一條ノ神經ニヨリテ第二副神經節ト連絡ス、ソノ形類橢圓ニシテ長徑約四・〇耗短徑約二・〇耗ヲ算ス。

二、第二副神經節。右側第三第四腰椎椎骨間軟骨ノ高サニ於テ交通枝ノ約中央部ニ、第一神經節ノ直下ニ密ニ、右側大腰脇筋内ニ介在シ、内方ハ一條ノ交通枝ニヨリテ第四腰椎部ニ位スル右側腹部交感神經節ニ連リ、外側ハ夫々一條ノ交通枝ニヨリテ右側第三第四腰部脊髓神經ニ連ル、神經節ハソノ形略々二等邊三角形ヲ呈シ底邊ノ長サ約二・〇耗垂線ノ長サ約二・五耗ヲ算ス。(第九圖參照)

第 一 表 副神經節ノ存在部位ト腰椎トノ關係

屍體番號	副神經節存在部位 性 別	右 側	左 側	合 計
第一例(第一號胎兒)	♂	0	3.—4.L.W.	1
第二例(第五號胎兒)	♀	0	1.—2.L.W.	1
第三例(第七號胎兒)	♂	2.—3.L.W.	2.L.W. 3.—4.L.W.	3
第四例(第八號胎兒)	♀	0	3.—4.L.W.	1
第五例(第十二號胎兒)	♀	3.—4.L.W.	0	1
第六例(第十七號胎兒)	♀	1.L.W.	1.—2.L.W. 2.L.W. 2.—3.L.W.	4
第七例(第十九號胎兒)	♀	0	1.—2.L.W.	1
第八例(第二十二號胎兒)	♂	0	3.—4.L.W.	1
第九例(第二十三號胎兒)	♂	3.L.W. 3.—4.L.W.	0	2

L.W.= 腰椎(以下之=準ズ)

第 二 表 副神經節ノ存在數ト腰椎トノ關係

副神經節存在數		右側	左側	合計
腰椎番號				
1. L.W.		1(Nr. 6)(2.1%)	0	1(2.1%)
1--2. L.W.		0	3(Nr. 2,6,7)(6.5%)	3(6.5%)
2. L.W.		0	2(Nr. 3,6)(4.2%)	2(4.2%)
2--3. L.W.		1(Nr. 9)(2.1%)	1(Nr. 6)(2.1%)	2(4.2%)
3. L.W.		1(Nr. 9)(2.1%)	0	1(2.1%)
3--4. L.W.		2(Nr. 5,9)(4.2%)	4(Nr. 1,3,4,8)(8.7%)	6(13.0%)
4. L.W.		0	0	0
4--5. L.W.		0	0	0
5. L.W.		0	0	0
總數		5(10.9%)	10(21.7%)	15(32.8%)

Nr.= 例證番號(以下之=準ズ)

副神經節ヨリ内及ビ外兩側ニ向ツテ出ズル交通枝ハソノ總數左側ニ於テ右側ヨリ多ク、内側即チ交感神經節及ビ幹ニ連ルモノニ比シ外側脊髓神經ニ連ルモノ左右兩側共何レモソノ數多シ。又一個ノ神經節ヨリ出ズル所ノ交通枝ニシテ其ノ數ノ最モ多キモノハ五條(第三例第二副神經節)ヲ算シ、最モ少數ナルモノハ相隣レル二個ノ副神經節ノ同一條交通枝ニ在ルモノ(第六例第二、第三副神經節)各一例、他ハ何レモソノ數兩者ノ間ニアリ。

交通枝ト脊髓神經間ノ連絡。(第三、四、五表)外側交通枝ニシテ脊髓神經ニ連ルモノ左右兩側總數二十七條平均左側ニ在ルモノ一、六條、右側ノモノ二、五條ニシテ、左右兩側ヲ通算スルニ、第一腰部脊髓神經ニ連ルモノ六例(八條)二六・〇

第三表 交通枝ノ數

屍體 番號	交通枝ノ數		小計	左側		小計	大計
	内側	外側		内側	外側		
第一例				1	2	3	3
第二例				2	1	3	3
第三例	2	1	3	1	2	3	11
第四例				3	2	5	
第五例	3	3	6	2	2	4	4
第六例	1	3	4	1	2	3	6
				2	1	3	12
				1	1	2	
第七例				1	2	3	3
第八例				2	1	3	3
第九例	1	2	3				6
	1	2	3				
平均	1.6	2.5		1.6	1.6		3.4

第四表 交通枝ト脊髓神經ノ連絡

屍體 番號	右側	左側
第一例		III.(2)l. s. N.
第二例		I.(1)l. s. N.
第三例	II.(1)l. s. N.	I.(2)l. s. N.
第四例		III.(2)l. s. N.
第五例	II.(1)l. s. N.	III.(2)l. s. N.
第六例	III.(2)l. s. N.	
	XII.(1)b. s. N.	XII.(1)b. s. N.
	I.(2)l. s. N.	I.(1)l. s. N.
第七例		II.(1)l. s. N.
		XII.(1)b. s. N.
第八例		I.(1)l. s. N.
第九例	I.(1)l. s. N.	III.(1)l. s. N.
	II.(1)l. s. N.	
	III.(1)l. s. N.	
	IV.(1)l. s. N.	

l. s. N.= 腰部脊髓神經  
b. s. N.= 胸部脊髓神經  
( ) 内數字ハ交通枝ノ數ヲ示ス (以下之=準ズ)

第五表 交通枝ト脊髓神經ノ連絡例數

交通枝連絡例數 脊髓神經	右側	左側	合計
XII. l. s. N.	1(Nr. 6)(1)(4.3%)	2(Nr. 6,7)(2)(8.8%)	3(13.0%)
I. l. s. N.	2(Nr. 6,9)(3)(8.8%)	4(Nr. 2,3,6,7)(17.8%)	6(26.0%)
II. l. s. N.	3(Nr. 3,5,9)(3)(13.0%)	1(Nr. 6)(1)(4.3%)	4(17.8%)
III. l. s. N.	2(Nr. 5,9)(3)(8.8%)	4(Nr. 1,3,4,8)(7)(17.8%)	6(26.6%)
IV. l. s. N.	1(Nr. 9)(1)(4.3%)		1(4.3%)
V. l. s. N.			

%、第三腰部脊髓神經ニ連ルモノ同シク六例(十條)二六・〇%ニシテ最も多ク、第二腰部脊髓神經ニ連ルモノ四例(三條)一七・八%ニシテ之ニ次ギ、第十二胸部脊髓神經ニ連ルモノ三例(三條)二三・〇%第四腰部脊髓神經ニ連ルモノ一例(一條)四・三%ニシテ、第五腰部脊髓神經ニ連ルモノハソノ例一ツモナシ。而シテ左右側ヲ比較スルニ左側第一腰部脊髓神經ニ連ルモノ四例(五條)一七・八%、同側第三腰部脊髓神經ニ連ルモノ等シク四例(七條)一七・八%ニシテ、共ニソノ場合最も多ク、右側第二腰部脊髓神經ニ連ルモノ三例(三條)二三・〇%ニシテ、之ニ次グ。

交通枝ト交感神經間ノ連絡關係ヲ觀ルニ(第六、七表)副神經節ノ介在スル交通枝ニシテ内側交感神經節又ハ交感神經幹ニ連ル所ノモノ總數十九例(二十二條)ノ中左側第二腰椎部ニ存在スル所ノ交感神經節ニ連絡スル場合最も多クソノ數四例(四條)一七・八%、左側第三腰椎部交感神經節ニ連ルモノ三例(四條)二三・〇%ニシテ、之ニ次ギ、右側第三及ビ第四腰椎部交感神經節ニ連ルモノ何レモ共ニ二例八・八%ナリ。尙ホ左側ニ於テ交感神經幹ニ連ルモノ二例(二條)八・八%アルモ右側ニ於テハ之ヲ認メ得ズ。即チ左右兩側ヲ通覽スルニ交通枝ニシテ副神經節ヲ有シ、交感神經節及ビ幹ニ連ルモノハソノ



第 六 表 交通枝ノ連絡スル交感神經節存在部位

屍體番號	交感神經節存在部位	右側	左側
第一例			III.(1)L.W.
第二例			I.—II.(1)L.W. Gr. st.(1)
第三例		II.—III.(2)L.W.	II.(1)L.W. II.—III.(1)L.W. III.—IV.(1)L.W.
第四例			III.(1)L.W. IV.(1)L.W.
第五例		III.(2)L.W. V.(1)L.W.	
第六例			II.(1)L.W. II.(1)L.W. Gr. st.(1) II (1)L.W. III.(2)L.W.
第七例			
第八例			
第九例		III.(1)L.W. IV.(1)L.W. IV.(1)L.W.	

Gr. st. = 交感神經幹(以下之 = 準々)

第 七 表 交感神經節ノ存在部位ト腰椎トノ關係例數

腰椎番號	交感神經節存在例數	右側	左側	合計
1. L.W.				
1.—2. L.W.			1(Nr. 2)(1)(4.3%)	1(1)(4.3%)
2. L.W.			4(Nr. 3,6,7)(4)(17.8%)	4(4)(17.8%)
2.—3. L.W.		1(Nr. 3)(2)(4.3%)	1(Nr. 3)(1)(4.3%)	2(3)(8.8%)
3. L.W.		2(Nr. 1,5)(3)(8.8%)	3(Nr. 1,3,8)(4)(13.0%)	5(7)(21.7%)
3.—4. L.W.			1(Nr. 3)(1)(4.3%)	1(1)(4.3%)
4. L.W.		2(Nr. 9)(2)(8.8%)	1(Nr. 4)(1)(4.3%)	3(3)(13.0%)
4.—5. L.W.				
5. L.W.		1(Nr. 5)(1)(4.3%)		1(1)(4.3%)
(Gr. st.)			(2(Nr. 16)(8.8%))	(2(2)(8.8%))
總計		6(8)(26.1%)	11(12)(47.8%) (2(2)(8.8%))	17(20)(73.9%) (2(2)(8.8%))

第 八 表 副神經節ノ大サ

屍體番號	副神經節ノ大サ		長	幅	長	幅
			右	側	左	側
第一例(十箇月胎兒) 43.3cm					4.0mm	2.0mm
第二例(35.1cm)					1.1mm	1.0mm
第三例(47.3cm)			3.3mm	1.3mm	4.0mm	1.5mm
					3.2mm	1.8mm
第四例(八箇月胎兒) 47.3cm					3.0mm	1.2mm
第五例(七箇月胎兒) 46.3cm			3.0mm	1.5mm		
第六例(十箇月胎兒) 43.3cm			1.1mm	1.0mm	1.5mm	1.0mm
					2.7mm	1.1mm
					1.5mm	1.0mm
第七例(九箇月胎兒) 41.0cm					1.1mm	1.0mm
第八例(八箇月胎兒) 43.5cm					1.2mm	1.1mm
第九例(十箇月初生兒) 48.8cm			4.0mm	2.0mm		
			2.5mm	2.0mm		

第 九 表 副神經節ノ形狀

屍體番號	第一例	第二例	第三例	第四例	第五例	第六例	第七例	第八例	第九例	合 計
副神經節數										
副神經節形狀										
橢圓形	1		2			2			1	6(40.0%)
三角形		1				2	1	1	1	6(40.0%)
多角形			1	1	1					3(20.0%)
總 數	1	1	3	1	1	4	1	1	2	15

即チ副神經節總數十五個ノ中橢圓形及ビ三角形ヲ呈スルモノ夫々六個四〇・〇%ニシテ、多角形ヲナスモノハ殘餘三個二〇・〇%ニ過ギズ。又副神經節ハソノ大サ最大ナルモノハ長サ約四・〇%ニシテ、總數十五個ノ中三個、

數第三腰椎部交感神經節ニ連ルモノ最モ多クシテ五例(七條)二一・七%、第二腰椎部交感神經節ニ連ルモノ之ニ次ギ四例(四條)一七・八%ニシテ、其ノ他ノ部位ニ存スル交感神經節ニ連ルモノハソノ例一乃至三ニ過ギズ。

## 二、副神經節ノ形狀及ビ大サニ就テ

交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ハソノ形一般ニ橢圓形ヲ呈スルモ、コレニ連ル所ノ交通枝ノ數及ビソノ分岐部位ニヨリテ少シクソノ形狀ニ變化ヲ示スヲ普通トス。厚サハ扁平ナラザルモ、一般ニ幅員ニ比シテ稍少キヲ普通トス。副神經節各個ノ大小形狀ハ既ニ前章ニ於テ記述セリ。今之ヲ表示セバ次ノ如シ。(第八、九表)

幅ニ於テハソノ最大ナルモノ約二耗ニシテ等シク十五個中三個ヲ算シ、大サノ最小ナルモノハ長サ及ビ幅何レモ約一耗ニシテ爾他何レモ兩者ヲ出デズ、ソノ中間ヲ往來ス。尙副神經節ノ大サト胎兒身長トノ關係ヲ觀ルニ、少クトモ生後四日迄ノ胎兒及ビ初生兒ニ於テハ一般ニ神經節ノ大小ハ大略身長ノ大小ニ從フモノ、如シ。

### 三、副神經節ノ顯微鏡的所見

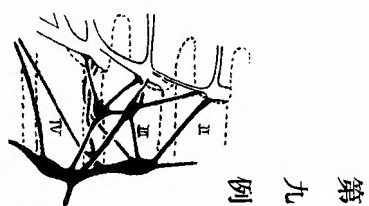
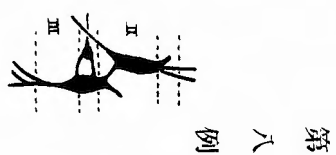
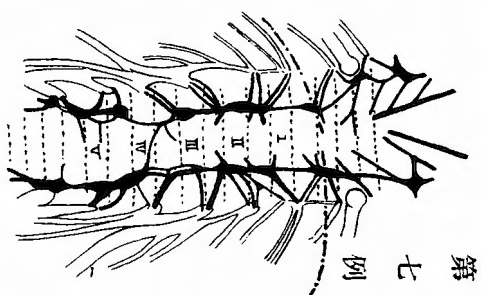
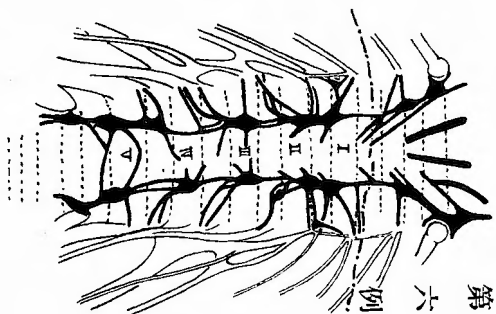
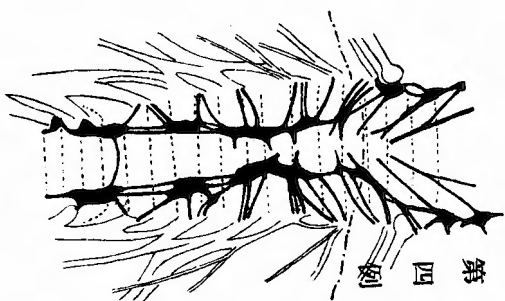
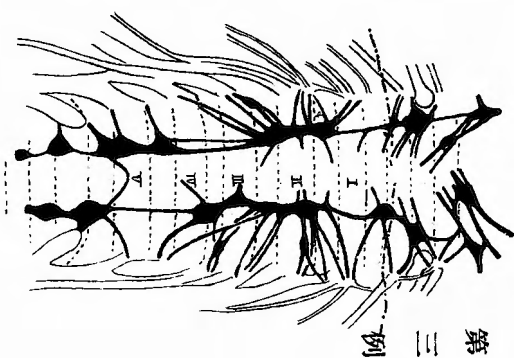
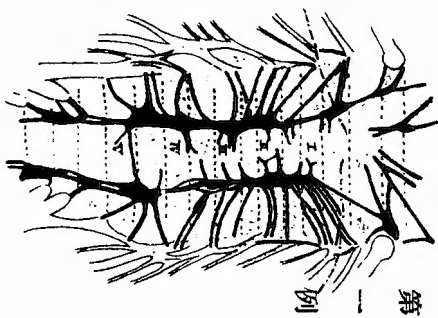
七〇%酒精中ニ固定サレタル材料ニヨリ所定方法ヲ以テ脫水、「バラフィン」包埋、厚サ一〇「ミクレン」ヲ有スル縱斷切片ヲ製作シ、「メチレンブラウ」及ビ「ヘマトキシリン・エオジン」等ノ諸染色ヲ施シテ、之ヲ鏡査セルニ、上述副神經節ノ總テニ於テ多數ノ神經細胞ノ密在スルヲ認ム。但シ其ノ微細ナル構造ニ就テハ固定方法ノ不全ニ歸因シテ所要操作ノ施シ得ザリシヲ以テ其ノ結果モ亦不明不確ナルモ、恐ラク交感神經ニ屬スル所ノ多極性神經細胞ナルモノ、如シ。

### 結 論

一、腹部交感神經交通枝ニ於ケル副神經節ノ存在ハ胎兒及ビ初生兒ニ於テハ必ズシモ當初余ノ考ヘタル如ク稀有ノモノニ非ズシテ、ソノ出現率ハ二十三例四十六例總數十五個中九例(三九・一%)、十一例(二三・九%)ニシテ、左側ニ多クソノ數五例(二・七%)、七例(一五・二%)、十個(四三・九%)、右側ニ少ク二例(八・七%)、四例(八・七%)、五個(二一・七%)ニシテ、兩側ニ存スルモノ二例(八・七%)ヲ算ヘタリ。

二、副神經節ノ存在ハ左右兩側共何レモ第三、四腰椎椎骨間軟骨部ノ高サニ於テ大腰脇筋内ニ存スルモノ最モ多ク、而モソノ數左側ニ多ク四個(一七・八%)、右側ニ少ク二個(八・八%)總計六個ニシテ、コノ部ニ存スルモノハ存在總數ノ二六・一%ヲ占メ、左側第一、二腰椎椎骨間軟骨部ニ存スルモノ三個(一三・〇%)ニシテ、之ニ次ギ、第四腰椎以下ニ於ケル腰部椎骨部ニ存スルモノナシ。

三、副神經節ヨリ内外兩側ニ向ツテ分岐スル交通枝ハソノ總數左側(三十二條)ニ多ク、右側(十九條)ニ少ク、内側即チ交感神經節及ビ幹ニ連ルモノニ比シ外側即チ脊髓神經ニ連ルモノソノ數一般ニ多シ。但シ各例個々ニ於テハ必ズシモ然



ルヲ見ズ。又一神經節ヨリ分岐スル交通枝ニシテソノ數最モ多キハ五條、最モ少キハ相隣レル二個ノ副神經節ニシテ、只ダ一條ノ交通枝ニ連ルモノアルヲ認メタリ。爾他ハ其ノ間ヲ往來ス。

四、交通枝ト脊髓神經ノ連絡ハ左側ニ於テハ第一及ビ第三腰部脊髓神經ニ於テ行ハル、モノ最モ多ク、二十三例中各々六例(二六・〇%)、右側腰部第二脊髓神經ニ於テ行ハル、モノ之ニ次ギ四例(一七・八%)、兩側共副神經節ヲ有スル交通枝ニシテ、第五腰部脊髓神經ニ連ルモノハ其ノ例一モナシ。

五、副神經節ハソノ形一般ニ類橢圓又ハ三角形ニシテ、總數十五個中該兩形ヲ呈スルモノ何レモ夫々六個四〇・〇%、多角形ヲナスモノハ三個二〇・〇%ニ過ギズ。

六、副神經節ハソノ大サ最大ナルモノ長徑約四・〇耗、短徑約二・〇耗、最小ナルモノハ長短兩徑何レモ約一・〇耗ニシテ、爾他何レモ兩者間ヲ出デズ。

稿ヲ終ルニ臨ミ舟岡教授ノ嚴密ナル御校閲ト、御懇切ナル御教示ニ對シテ滿腔ノ謝意ヲ表ス。

#### 註ナル引用文獻

- 1) Broek. Untersuchungen über den Bau des sympathischen Nervensystems der Säugetiere. Morphologisches Jahrbuch. Vol. 38, S. 352-589, 1908.
- 2) Mannu. Ricerche anatomico-comparative sul Sympatico cervicale nei Mammiferi (Contributo alla Morfologia del Sistema simpatico nei Vertebrati). Internationale Monatsschrift für Anatomie und Physiologie. Bd. 39, S. 40, 1914.
- 3) Matsui. Beiträge zur Kenntnis der Anatomie des sympathischen Nervensystems. IV. Mitteilung: Truncus sympathicus cervicalis bei Neugeborenen und Föten. Acta scholae medicalis universitatis in Kioto. Vol. VIII. Fasc. III. S. 397-424, 1926.